

編集後記（あとがき）

令和5年度の山形市水道100周年にあたり、「山形市水道百（100）年史」を編集することになり、令和3年度から本格的に編集作業が始まりました。編集は昭和51年9月1日に発行された「山形市水道五十年史」と平成7年3月24日に発行された「山形市水道七十年史」の内容を引き継ぐ形式をとり、山形市の江戸期の水事情から、大正12年（1923年）の通水に至るまでの水道黎明期から創設期までの状況、人口と水需要の増加に伴う昭和期以降の4回にわたる水道事業拡張期の動向、拡張から維持管理と次世代に向けた新たな上下水道事業の構築についての取組みを盛り込み、水道事業を柱とした「山形市の水道通史」をコンセプトとして編集しました。

本史を水道事業の歴史的経過として編集した目的は、「温故知新」の言葉の通り、現在の水道事業は、創設に関わった先人たちの熱い思いとご尽力の結晶であるとの思いからです。新たな取り組みは常に前計画を評価し、成果と課題を明確にして方針を決め進めますが、経年変化を調べるためには、更にさかのぼって事業の詳細を確認する必要があります。特に水道事業の施設や管路は耐用年数が長いので、世代を超えた情報の伝達と共有が必要になります。その点からも、未来の新たな水道事業を構築するため、過去・現在の水道事業の取組みを「水道100年のあゆみ」として編集することは、将来に向け大変意義深いことであると考えています。

特に、「山形市水道五十年史」では、収集した膨大な明治・大正期の資料と学術的研究を基に編集されており、過去の水道事業を知る貴重な資料となっています。また、「七十年史」は、平成以降の動向が詳細に記述され

ているため、水道施設の維持管理を行う上で事業の詳細確認に活用されています。

なお、山形市上下水道部では、平成28年3月に「山形市下水道50年史」を編集・発行していますが、本史では上水道事業を中心にしながらも下水道事業についても取り上げ編集しています。

現代社会は、あらゆる面で加速度的に変化を遂げ、50年・100年後を見通すことが困難な社会になりつつあります。特に人口減少による労働力不足とそれを補おうとするAI（人工知能）の利用拡大は、私たちの生活をどのように変えていくのか。想像することはできても、明確に答えられる人はいません。将来的には多くの事業でAIを積極的に取り入れ、産業社会を変えていくかもしれません。しかし、社会が変わっても「変わらないもの」「変わってはいけないもの」があるはずです。上下水道事業は市民が「安全と安心と幸福」を享受するための事業であり、「人と人のつながり」が土台にあります。今後、開発される新たな技術が「人の安全と安心そして幸福」を支えるものであってほしいと願っています。

結びになりますが、本史の編集にあたり、関係機関のみなさんと多くの職員から資料の提供、寄稿していただきました。心より感謝申し上げます。本史がこれからの山形市上下水道事業推進において一助になることができれば幸いです。

令和6年3月

須田 浩二

山形市水道通水100周年記念事業実行委員会
山形市水道百年史編集委員会
山形市上下水道部 経営企画課 広報広聴係

山形市水道百年史

令和6年3月15日発行

編集 山形市水道百年史編集委員会
山形市上下水道部 経営企画課 広報広聴係

発行 山形市上下水道部 山形市南石関27

印刷 藤庄印刷株式会社
山形市あこや町3丁目18-30